

第4回「日本語体験コンテストinヤンゴン」 実施報告書



前列左より 石塚実行委員、白石審査委員、大塚審査委員長、菊川実行委員長、呉 玲知氏 (ANA ヤンゴン支店)
村松実行副委員長、SAM HLA PHYU 氏 (DSHP 日本語学校 校長)
後列左より コンテスト入賞者 5 名

- 【実施日】 2014 年 9 月 30 日（火）予選会：12：00～ 本選会：14：00～
- 【会場】 ミャンマー・ヤンゴン市 CHATRIUM HOTEL ROYAL LAKE
- 【主催】 一般財団法人 共立国際交流奨学財団
- 【現地運営団体】 MOMIJI 日本語センター
- 【後援】 在ミャンマー日本国大使館
全日本空輸株式会社ヤンゴン支店
- 【協賛】 株式会社 共立メンテナンス

＜総評＞

「日本語体験コンテスト in ヤンゴン」は今年度で第4回目を迎えることが出来ました。今年度は、9月30日(火)、ミャンマー・ヤンゴン市 CHATRIUM HOTEL ROYAL LAKE で開催致しました。

応募総数 62 名のうち 50 名が当日参加し、そのうち 15 名が予選会を通過、本選会のスピーチコンテストへ進みました。

予選会では、日本の政治、経済、文化、文学、歴史、地理、社会、流行などについての聞き取り問題 30 問を日本語で出題し、日本語能力だけではなく日本についての知識を試しました。30 問のうち 13 問以上の正解者が予選会を通過しました。

本選会では、その場で出された 3 つのスピーチ課題、①わたしが日本人に紹介したいミャンマーの有名人は… ②わたしが訪れてみたい日本の世界遺産は… ③わたしが社長だったら、日本企業と一緒につくりたいものは… 以上の課題から 1 つを選択し、5 分のシンキングタイムの後、3 分間の即興スピーチを行いました。

審査委員 3 名による審査の結果、5 名が入賞し、審査委員長より賞状と賞品目録を授与されました。入賞賞品は「夢・日本体験賞」で、2015 年 1 月 19 日(月)～1 月 26 日(月)(7 泊 8 日 1 泊機内泊)の日本体験旅行に招待致します。

この日本体験旅行で、日本留学の為の第一歩として日本を理解し、最終的に日本留学をして、将来日本・ミャンマー両国の発展に貢献する人材となることを願っております。

＜実施報告＞

■ 予選会

予選会	12 : 00～	開会の辞・注意事項説明
	12 : 10～	予選 (日本語聞き取り問題 30 問)

日本の政治、経済、文化、文学、歴史、地理、社会、流行などについての聞き取り問題 30 問



受付では日本の学校のパンフレットを配布しました！
ミャンマーでは無料でもらえるパンフレット等が人気で、あっという間に用意していたパンフレットが無くなりました。



予選会の様子

■ 本選会

本選会	14 : 00～	予選通過者発表 (21 名)
	14 : 10～	開会の辞・審査委員紹介・注意事項説明
	14 : 20～14 : 25	シンキングタイム
	14 : 25～	スピーチ

予選通過者： 15 名 ⇒ 入 賞 者 ： 5 名

課題： ①わたしが日本人に紹介したいミャンマーの有名人は…
 ②わたしが訪れてみたい日本の世界遺産は…
 ③わたしが社長だったら、日本企業と一緒に作りたいたものは…

本選会で選ばれた課題の内容としては、①が 4 名・②が 6 名・③が 5 名という結果になりました。丁度 3 日前にミャンマーで同コンテストを実施しましたが、その時は②番を選択した学生は 1 名しかおりませんでした。最初にスピーチをする学生の選んだテーマにより、どのテーマを選択するのか左右されることもあると思いますが、国柄によってテーマの選択が変わるという事もあるように感じました。

また今回から本選会のスピーチ後に審査委員による質問タイムが設けられました。各審査委員の先生方が一人ずつ質問していくという形式で行われました。質問の内容が理解できずに、聞いたことと違う回答をしてしまう場合や、聞き直すこと等ありましたが、本選会に勝ち進んだだけのことはあって、質問タイムも盛り上がりしました。



シンキングタイム♪



3 分間の即興日本語スピーチ



3 分間の即興日本語スピーチ



審査委員からの質問

■ 表彰式

表彰式	16 : 00～	「夢・日本体験賞」発表（5 名）
-----	----------	------------------

式次第

- 一、開会の辞
- 一、実行委員長挨拶
- 一、来賓挨拶
- 一、審査委員講評
- 一、賞状授与
- 一、閉会の辞



菊川実行委員長挨拶
当財団理事長



来賓挨拶 吳玲知氏
ANA ヤンゴン支店



大塚審査委員長講評
当財団奨学金選考委員



入賞者 5 名に賞状と目録を授与



入賞者 5 名に賞状と目録を授与



予選会通過者 10 名に奨励賞の授与

【入賞者】『夢・日本体験賞』



後列左より コンテスト入賞者 5 名 HTOO THINZAR WIN、THINN THANDAR AUNG、NWAY YU WAI、
WYNNE WYNNE MYINT OO、JULY AUNG WIN

氏名	所属
NWAY YU WAI	東ヤンゴン大学(もみじ日本語センター)
HTOO THINZAR WIN	ヤンゴン外国大学(ザーザー先生)
JULY AUNG WIN	ヤンゴンコンピューター大学 (もみじ日本語センター)
WYNNE WYNNE MYINT OO	ダゴン大学(ウィン日本語学校)
THINN THANDAR AUNG	ヤンゴン外語大学(D.S.H.P 日本語学校)

入賞者 5 名には入賞賞品として、2015 年 1 月 19 日 (月) ～1 月 26 日 (月) (7 泊 8 日 1 泊機内泊) の「夢・日本体験賞」(日本体験旅行) に招待致します。



講 評

審査委員長 大塚 博

一般財団法人 共立国際交流奨学財団 奨学金選考委員
元文化服装学院 学務部長

ミャンマーの「日本語体験コンテスト in ヤンゴン」も今年で4回目となりました。12時に予選会が始まり、予選通過者の発表などののち、本選の3分間スピーチが始まりました。本選に進出した15名は、最年少が17歳、年長は36歳と幅が大きく、その分日本語の学習歴もさまざまで、1年半程度から6年とひろがりがあります。日本語資格もN1取得者が1名、N2～N5までとこれもさまざまです。

今年のテーマは、1. わたしが日本人に紹介したミャンマーの有名人は・・・2. わたしが訪れてみたい日本の世界遺産は・・・3. わたしが社長だったら、日本企業と一緒につくりたいものは・・・の3つです。5分間のシンキングタイムでテーマを選び、内容を考え、早い者順でスピーチが始まります。何となく1. を選択する方が多いのではないかと予想していたのですが、1. 4名、2. 6名、3. 5名という結果になりました。

採点基準は、聞く人の興味をひく話か、相手に意見が伝えられているか、話す態度に好感がもてるか、時間管理ができているか、などに積極性を加えて、審査員3名の集計点の上位5名に、7泊8日「夢 日本体験旅行」が贈られました。

スピーチを聞いてミャンマーの日本語教育の質の高さを実感しましたが、同時に話の内容からミャンマーの人々の風土や文化への愛情の深さを強く感じました。特に、仏教の教えを守り、パゴダを大切にし、僧侶を敬うというように、仏教が深く生活に根をおろしている印象を受けました。また、日本の文化や生活へのあこがれも強く、その美点や長所への思いも十分に伝わってきました。

5名の入賞者は旅行を存分に楽しんで、次につなげて欲しいと思います。今回残念だった方々も、日本語習得に一層努力して、このコンテストを目標に、来年再来年と挑戦して下さることを楽しみにしています。



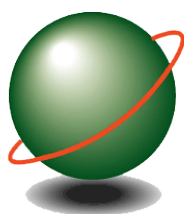
講 評

審査委員 白石 麻子
共立財団日本語学院 教員

今回の第4回「日本語体験コンテスト in ヤンゴン」では62名の参加者の皆さんをお迎えし、熱気溢れる会場にて、予選会、本選会が行われました。

特に本選会のスピーチを拝聴していて感心したのは、参加者の皆さんの日本への興味、関心の高さです。広島県厳島神社や富士山への憧れや、日本の環境保全、景観作りから学びたい、日本の旅館サービスの規則正しさを取り入れたいという意欲、また、日本のストレス社会を生きる人々を仏教のお坊さんの言葉で救いたい等々、発想力豊かに、熱心に語り続ける姿がとても印象的でした。そして、その熱意は今後皆さんの将来を切り拓く、何よりも大きな原動力となるであろうことと強く感じております。

今回この日本語体験コンテストと入賞賞品である「夢 日本体験旅行」を通じて、より一層日本への興味、関心を深められ、皆さんが日本とミャンマーの架け橋となり、様々な場面で活躍されることを期待致しております。



K.I.F

一般財団法人 共立国際交流奨学財団

所在地：〒101-0021

東京都千代田区外神田 2 丁目 18 番 8 号

TEL : 03-5295-0205

FAX : 03-5295-0206

URL : <http://www.kif-org.com>